

## 第四回GNHシンポジウム

公益財団法人 庭野平和財団

2011年11月16日、中野サンプラザ

### <開催主旨>

庭野平和財団は設立30周年に当たる2008年に、活動テーマである「平和と宗教」の具体例として、ブータン王国の第四代国王が仏教精神を基本にして現代の諸課題を克服するために提唱されたGNH（国民総幸福量）に関する連続シンポジウムを計画いたしました。

2008年11月の第一回シンポジウムでは、「地域社会とGNH（国民総幸福量） - 日本におけるGNHの向上に地域社会がどのように取り組むか」をテーマとして、大阪大学グローバルコラボレーションセンター准教授（当時）草郷孝好先生に基調講演を頂き、GNHの紹介、日本の地域社会でのGNH向上の取り組みについて、熊本県水俣市の事例を中心に学びました。

2009年10月の第二回シンポジウムでは、「日本におけるGNH（国民総幸福量）のかたち」をテーマとして、明治学院大学国際学部教授 辻信一先生に基調講演を頂き、混迷する現代社会において、人間の真の幸福とは何か、その実現ための方策は何かをブータンの取り組みから学びました。また、水俣市の過去と現在、女性の起業活動、NPOのネットワーク活動など、日本における事例を紹介し、われわれ一人一人がその足もとから実践できる地域再生などを通じて、GNHを高めるためには何ができるのか、さまざまな提案と討議がされました。

2010年10月の第三回シンポジウムでは、GNHを高めるための具体的活動への展開といった今後のシンポジウムのあり方を見据えて、「地元学の実践：水俣とそれ以外の地域への普及可能性」をテーマとした水俣地元学の創始者である吉本哲郎氏（地元学ネットワーク主宰）の基調講演と、吉本氏、草郷先生、楨ひさ恵氏（明るい社会づくり運動理事長）による鼎談を行いました。

本年の第四回シンポジウムでは、立教大学大学院教授 内山節先生の「日本の農村から未来を創造する - 新しい想像力が求められる時代を前にして」と題した基調講演の後、草郷さん、楨さんとの鼎談やフロアとの質疑応答で内山先生の哲学について理解を深めたいと思います。

限られた時間ではありますが、講演、鼎談、そして皆さんとのやり取りを通し、3月11日以後の日本社会をどのように創造していくか、その想像力が沸き立つようなシンポジウムにしたいと念願しております。

<プログラム> (敬称略)

- 14:00 開会挨拶、趣旨説明 - 野口専務理事
- 14:10 講演「日本の農村から未来を創造する - 新しい想像力が求められる時代を前にして」 - 内山 節 (立教大学大学院教授)
- 15:10 休 憩
- 15:25 鼎 談 内山節 草郷孝好 (関西大学教授)  
槇ひさ恵 (明るい社会づくり運動理事長)
- 16:45 休 憩
- 17:00 質疑応答
- 17:30 閉 会

<講師紹介>

**内山 節 (うちやま たかし) / 立教大学大学院教授**

1950年東京生まれ、哲学者、立教大学大学院教授、NPO法人森づくりフォーラム代表理事。高校卒業後、大学などの高等教育機関を経ることなく、書籍などで自らの思想を発表しながら活動し、哲学する人で知られる。1970年代から現在に至り、東京と群馬県上野村との往復生活を続けている。著書に『「里」という思想』(新潮社 2005年)、『日本の「むら」から未来を想像する』(農山漁村文化協会 2006年)、『「創造的である」ということ(上、下)』(同、2006年)、『戦争という仕事』(信濃毎日新聞社 2006年)、『清浄なる精神』(同 2009年)など多数。

**草郷孝好 (くさごう たかよし) / 関西大学教授**

1962年愛知県に生まれる。東京大学経済学部卒業後、民間会社勤務などを経て、スタンフォード大学で開発経済学の修士号を取得、のちにウィスコンシン大学マディソン校にて開発学の博士号を取得した。世界銀行、国連開発計画 (UNDP) に勤務し、途上国の貧困削減政策形成にかかわる経験を持つ。明治学院大学、北海道大学、大阪大学を経て、現在は関西大学社会学部教授。内発的な社会創造をテーマにして、多種多様な研究手法を活用し、国内外でフィールド調査研究、アクションリサーチを行っている。

**槇ひさ恵 (まき ひさえ) / 明るい社会づくり運動理事長**

東京都に生まれる。1979年より(社)日本青年奉仕協会でもボランティア活動推進に携わる。1992年から(財)ナイスハート基金において障害者問題の啓発、国際交流・支援に携わり2003年退職。傍ら日本ネットワークーズ会議において市民活動の基盤強化のための調査・研究、フォーラム開催等を行い、米国のNPOの仕組みを紹介する。2003年、モンゴルやタイ等のハンディを抱える人びととの交流・支援を行う(特活)ニンジン創設に参画し、常務理事・事務局長。都留文科大学非常勤講師。2007年より(特活)明るい社会づくり運動副理事長。(特活)日本チェルノブイリ連帯基金理事、(特活)パブリックリソースセンター理事、日本ボランティア学会運営委員。

日本の農村から未来を創造する  
—新しい想像力が求められる時代を前にして

内山 節

2011/11/16

1. はじめに  
—東日本大震災と「自然の災禍」「文明の災禍」
  
2. 日本の伝統的な社会観とは何か  
—欧米の社会観と生きている人間  
—自然と人間の社会、生者と死者の社会としての日本の伝統的な社会  
—現代の日本と伝統的な社会観に戻ろうとする動き
  
3. 農山漁村社会と「外部」との結びつき  
—農山漁村社会と伝統的な社会観  
—結びつきを生み出す技の役割について  
—開かれた共同体のかたち
  
4. 限界をみせはじめた現代社会  
—資本主義、国民国家、市民社会、近代技術と個人  
—先進国の富の独占が崩れるなかで
  
5. これからの社会とコミュニティ=共同体  
—多層的共同体のかたちについて  
—コミュニティとソーシャルビジネス  
—都市と農山漁村との相互性の確立を目指して
  
6. まとめに代えて  
—未来への構想力、未来への動き

(メ モ)